

東京週報 全4巻

電子書籍版
 定期刊行中

[監修・解説] 大原祐治 (実践女子大学)

KD0766 2024年9月

長らく、坂口安吾やその関係者の書簡、文章などにその名前のみが確認されていた幻の週刊新聞『東京週報』。発掘された一九三三年分（創刊号～第49号*第42号は欠号）の紙面を、復刻版にて刊行。

【本書の特色】

- 『東京週報』は1933（昭和8）年2月5日に創刊されたタブロイド判の週刊新聞。長らく、坂口安吾やその関係者の書簡、文章などにその名前のみが確認されていた幻の週刊新聞であった。今回、発掘された1933年分（創刊号～第49号〈第42号は欠号〉）の紙面を、復刻版にて刊行する。
- 国内国外の政治・経済、大学野球を中心としたスポーツ、ファッションなどの流行、競馬、映画界動向などの芸能、充実した文芸欄・書評など、多岐にわたる内容を掲載した総合的な新聞である。豊富な写真・カット・イラストによって魅力的な紙面が構成されている。
- 文芸欄を担当していたのは、安吾の親しい友人だったフランス文学者の大久保洋。その大久保の回想「希望の明星 わが三田の青春3『東京週報』奮闘記」（『知識』1988年3月）によれば、『東京週報』は、元『国民新聞』社長で新聞界の重鎮だった伊達源一郎が立ち上げたときされる。大久保は文芸関係記事の差配を任せ、大久保は安吾の人脈を頼った。
- 特に掲載された文学者のエッセイ、創作は、そのほとんどが個々の作品集には未収録で新発見のものである（執筆者 坂口安吾/牧野信一/矢田津世子/井伏鱒二/堀口大學/海野十三/直木三十五/吉川英治 など）。



長らく、坂口安吾やその関係者の書簡、文章などにその名前のみが確認されていた幻の週刊新聞『東京週報』。発掘された一九三三年分（創刊号～第49号*第42号は欠号）の紙面を、復刻版にて刊行。

ProductID	書籍 - タイトル	書籍 - シリーズ名	「同時アクセス数1」の 販売価格（本体価）	「同時アクセス数3」の 販売価格（本体価）
KP00100320	東京週報 1（第1号～第12号）	東京週報	¥38,500	¥77,000
KP00100321	東京週報 2（第13号～第24号）	東京週報	¥38,500	¥77,000

● 『東京週報』 第1回配本 主要目次とサンプルページ

第1号

〈表紙〉「非常時の女学生 小石川高女の軍事教練—いま軽機関銃の射撃中—」／「発刊のこぼし」／「国際連盟と米国の策動 小国側の日本攻撃の真相」／「週間ニュース 政治日誌、経済日誌、世界日誌、社会日誌」／「政変来!の警鐘 次の政権は何処へ」／「第六次日本共産党に三つの特異性」／「優話話 前週」徳川夢声／「続切小説 蘇餅太平記」土師清二／「松方幸次郎論 盲滅法 放胆なうちに涙もろい半面を持つ」／「反射塔」直木三十五／「スポーツ 全フ」の恋人 リーグ戦よ何処へ行くか?」太田四州／「コント 喧嘩」久野豊彦
 ／「デマの中に泳ぐ引張風のスター連日活・松竹の大喧嘩」ほか

第3号

〈表紙〉「連盟を操縦して小国を躍らせつゝあるドラモンド氏」／「米国海軍は何を惑ふ 太平洋に全勢力集中」／「親日から排日的へ 英国態度の急変」／「焦慮する蒋介石 虚を狙ふ両広連盟」／「南洋群島の現状」／「見果てぬ夢の自動車大工業 米国二大工場の閉鎖」／「社会展望」直木三十五／「世界の動き」／「優話話前週」徳川夢声／「一輪陸軍」平山藤江／「反射塔」直木三十五
 ／「連続小説 春宵おぼろ男」吉川英治／「落着いた妻妾映画況」／「コント 三十男Q・Dの告白」井伏鱒二 ほか

第12号

〈表紙〉「近く凱旋する松岡代表」／「澎湃たる白濁の波に 喘ぐアジア民族の姿」／「経済封鎖の第一歩 日印通商の廃業」／「北支の形勢急転」／「世界の動き」／「整然たる統制下に躍進する満洲国」／「不安の政局に 対し軍部は何を望むか 現内閣支持の傾向」／「週間トピックス」／「会社を探ねて 帝国製 麻」／「米国のインフレ病」／「松岡代表の足跡」／「初夏の流行 御婦人達の好みは?」／「変態シーズンの妙味? 乱戦強豪転落の兆」太田四州／「レヴュー 全盛時代 松竹少女歌劇、エノケン 新宿ムーラン・ルージュ 帝都の舞台を三分」 ほか

